

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	てあてるの芽 大阪港		
○保護者評価実施期間	2026年1月21日		2026年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年1月21日		2026年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での連携、役割がきっちり決まっているので共通認識をしっかりと持っている。	カンファレンス等以外の時間でも勤務中は常に利用児について職員間で共有している。 事業所独自のリーダー制度を取り入れ職員1人1人役割を意識して円滑に業務を進めている。	現在の連携体制を維持しながら、記録の統一や研修を通して支援方針の理解を深め誰が対応しても同じ支援ができるようチームでの共通認識をより一層強化していく。
2	有資格者が多く、専門的な支援内容が充実している。 困りごとに応じた1人1人に合った支援ができる。	困りごとについて職員全員で様々な視点からアプローチしている。	有資格者の専門性をさらに活かす為定期的な研修やケース検討を行い、職員全体で知識や支援方法の共有を進める。また、アセスメントや振り返りを丁寧に行い、子どもひとりひとりの困りごとや成長に応じて支援内容を見なおしながらより個性の高い支援の充実を図っていく。
3	SSTや外出、食育等様々なイベントを通して楽しみながら支援している。	外出・クッキング・サイエンス・ルールのある遊び等毎月バランスよくイベントを計画し実施している。	外出活動や地域行事への参加などを通して子ども達が地域の人や場所と関わる機会を増やし、社会性や自立につながる経験をつむことができるよう支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団活動時の幅がやや限られる。	未就学児から小学生までの年齢差がある為。	活動内容を職員間で事前に共有し役割分担を明確にすることで、個別への配慮と集団活動の両立ができる体制を整え、無理のない形で参加経験を増やしていく。
2	社会資源としての地域からの認知不足。	活動内容が地域に十分知られていない。	地域貢献として事業所全体でごみ拾いなどのボランティア活動に積極的に参加していく。
3			